

今後の方向づけのために

宮崎方式に学ぶ



岩切章太郎氏の講演から

花の宮崎、太陽とみどりの国、新婚旅行のメッカなど宮崎に冠せられることばがいくつもあります。そして、そんな宮崎の旅に満足し、また来たいと思っただけのお客さんが多いのも事実です。その原因を考えてみますと、周到な計画のもとにつくられた景色の美しさ、県民性を思わせる接客マナー、清掃の徹底、子供たちに至るまでチリを捨てないというしつけ、そういったことが一つになってこんにちの宮崎があるような気がします。また、その裏には宮崎をよくするために「寝てもさめても」考え続ける岩切会長の大変な努力があることも見落すことはできません。それは地域と融和し、密着したユニークな企業の姿でもあるようです。

ところで、会長は講演の中で「熊本の美しい自然、歴史の重さ、すぐれた伝統がうらやましい」と言っておられます。しかし、私たちは長い間その上にあぐらをかき、その土台さえ見失ないかけていたのではないのでしょうか。講演を聞いて、そんな反省をさせられると同時に、これから美しい熊本づくり運動を進めるうえで耳を傾けねばならないことが非常に多いようです。

■昔の人の知恵を見直す

ご紹介をいただきました岩切でございます。大変いい機会に出席をさせていただいております。ご紹介をいただきました岩切でございます。大変いい機会に出席をさせていただいております。

よく世間では経済開発と自然とは違った概念で、これは必ず矛盾するものだと思います。山を壊してしまえば、自然破壊はそこには何にもありません。しかし、よく考えてみて下さい。あれほど大きな工事をしたのですから、必ず大きな自然破壊をしたに違いないのです。山を壊してしまえば、木を切ったでしょう。しかしながら、昔の人は自然の大事なことをよく知っておりま

した。だから必要最少限度にして大事な木はみな残したのであります。そればかりかお寺が出来ますと一度壊したところにはみんな木を植えて復元をしておたのでございます。ですから今日のように立派なお社が出来て、そこだけが空いていたかのように自然とけこんだ形で残っておるのでございます。これを今日の大きな工事と比較してごらんになりま

何かも一度に壊してしまいます。残すべき物まで皆壊してしまおう。そして建て物が出来ても壊れたところには樹木を植えません。これでは自然保護と開発とが矛盾するの当然でありまして、もし私達が昔と同じように破壊は最小限度にとどめて残すものは残し、荒したところには木を植えておいたならばこういふことにはならなかったのです。私も今は今こそ昔の人が行なった努力と知恵を見なおさなければならぬと思います。

と私は思っております。観光開発で一番問題になりますのはスカイライン。熊本にもスカイラインが沢山出来ましたが、見物をするためにスカイラインを作るのは当然必要なことでありましてスカイラインがなければ私共はあの山も見れません。しかし、スカイラインが出来ますと必ずその付近の森がすっかり荒れてしま

植林地でも造林地でもご覧になりますとよくわかりますが、大きな林があります。それがマントを引き廻したようにして風が中に入るのでふさいでおります。ですからこの林の中は乾燥しませぬ。微生物も死にませぬ。死なないから落ちた枯葉が腐敗して肥(こやし)になります。この大きな理法を忘れて山の中に大きな自動車道をつくる。自動車道をつくらば必ずその周囲にはマント林がないと荒れるのは当然であります。それをやらないからすつかり土地が死んで木が枯れてしまうのでありまして、これは開発する心掛けがいけないわけです。(中略)

岩切章太郎氏 略歴

- 明治26年宮崎市生まれ
- 大正15年宮崎交通(株)社長就任
現在会長
- 昭和22年宮崎県観光協会々々長
- 同33年全日空取締役
- 同34年宮崎県経営者協会々々長
- 同36年九州山口経済連合会副会長
- 同38年観光政策審議会委員
- 同39年日本観光協会副会長
- 同39年国際観光振興会運営委員
- 43年自然公園審議会委員
- 46年勲二等旭日重光章受賞



美しい熊本づくり運動への提言

■二つの方法

さて、本日に課せられましたテーマである美しい熊本づくりをするにはどうすればよいかということですが、これはいまお話いたしましたことからおわかりになりますように二つの事が必要で、一つは美しい熊本の自然を守ること。もう一つは美しい熊本の自然を造ること。

守ることと造ること、この二つが初めて美しい熊本づくりが出来るのではないかと思います。ではどうすればよいか。これは皆さんでなければよくわからない。私のようなよそから参りましたものには、ほんの一部分しかわかりません。どこに熊本の美しさがあるのか、どこに熊本の良さがあ

さんが自分自分でお考えになってこれかいいなと思うようなものを作っていたかねばなりません。私は、私が宮崎でやっただけで済ませたいことを少しお話しして、そのうちで皆さんがこれは自分の方でも使えるなと思われたらお使いいただくと有難いと思っております。

宮崎の観光開発のやりかたに二つのポイントがございます。ひとつは自然の中に